

亀戸線全線でワンマン運転を開始

東武鉄道株式会社

東武鉄道（本社：東京都墨田区）では、平成16年10月19日（火）より、亀戸線全線（曳舟～亀戸間）においてワンマン運転を開始します。

亀戸線は、当社伊勢崎線との分岐駅となる曳舟から、途中、小村井、東あずま、亀戸水神の3駅を経てJR総武線と接続する亀戸まで結ぶ、営業キロ3.4kmの路線で、2両編成の電車が各駅停車で運行しており、通勤・通学や地元の方の足として1日平均4万6千人のお客様にご利用いただいています。

当社では、近年、鉄道輸送人員の減少が続く中で、輸送コストを勘案し、平成15年3月19日より大師線全線（西新井～大師前間、営業キロ1.0km）および小泉線（館林～西小泉間・太田～東小泉間、18.4km）の一部列車でワンマン運転を開始しており、今回、亀戸線においてもお客様の利用状況等を踏まえ、ワンマン運転を実施することとなりました。

なお、実施にあたりホームミラーや監視用テレビ、ホームセンサーなどの設備を設置し、安全対策には万全を期して運行いたします。

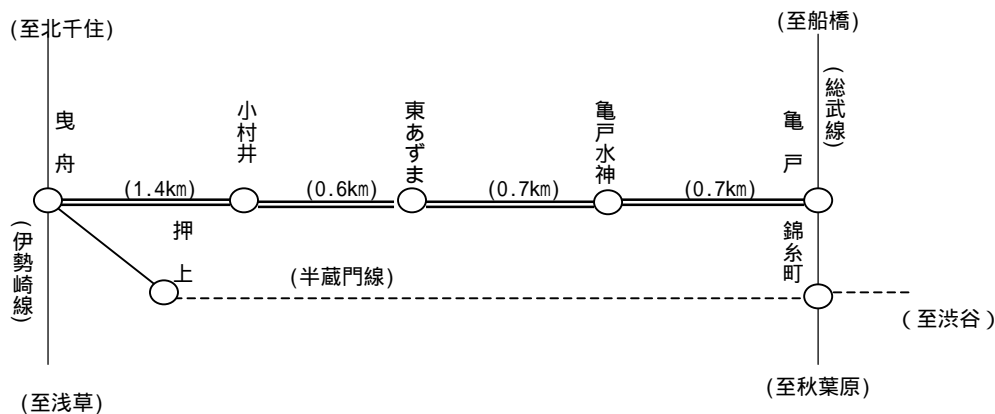
亀戸線ワンマン運転の概要は別紙のとおりです。

以上

亀戸線ワンマン運転の概要

1 ワンマン運転区間

亀戸線全線（曳舟～亀戸間） 営業キロ 3.4 km



2 1日の運転本数（すべて2両編成電車による各駅停車で運転）

- (1) 平日 上り（亀戸 曳舟）115本
下り（曳舟 亀戸）116本
- (2) 土休日 上り（亀戸 曳舟）110本
下り（曳舟 亀戸）111本

3 亀戸線の1日平均利用人員 46,130人（平成15年度実績）

4 ワンマン運転設備

ワンマン運転開始に際しては、以下の設備を設置し、安全輸送に万全を期します。

ホームミラー・監視用テレビの新設

ホームミラーは亀戸線全駅、監視用テレビは必要な箇所に設置し、列車の起動時に運転士がホーム上のお客様の安全を確認し、接触事故を防止いたします。

ホームセンサー装置の新設

全駅に設置し、ホーム上部のセンサーカメラが列車発車時の安全監視を行います。本装置は、列車に接近するお客様や物を感知し、運転士に危険を通知して列車を停止させます。同時にホーム上のお客様にも危険を知らせる放送を行います。

限界支障装置の新設

並走曲線区間にポールを立て、事故(脱線)等によりポールが傾いた時に発光信号を動作させ、防護を行い、並走線路の列車の運転士に危険を通知し、相手列車を停止させます。

非常通報装置の設置

異常時に各車両運転室背面および車椅子部の3か所に設置された非常通報用ボタン（対話式）を押すことにより、運転士と通話ができます。

（参 考）

現在のワンマン運転実施区間（平成15年3月19日より実施）

大師線：全区間（西新井～大師前間の全列車）

小泉線：一部区間（太田～東小泉間の全列車および東小泉～西小泉間の一部列車）

以 上